

独立行政法人 経済産業研究所 (RIETI)

BBL セミナー資料

2016年5月10日

「シリアの紛争はいかに終焉するのか
—中東における新たなウェストファリア秩序を求めて」

松本 太

<http://www.rieti.go.jp/jp/index.html>



「シリアの紛争はいかに終焉するのか？」

2016年5月10日、経済産業研究所にて

松本 太

1 シリアの今と認識の座標

- ・ 昭和20年の日本との比較・・・シリアで起きていること
- ・ 大シリア地域＝「シャーム」＝マシュリク（東方アラブ地域の重心）
- ・ 現下の中東問題の解決は、その核心にあるシリア問題の解決なくしてありえない

2 我々の不安の根源と秩序の崩壊

- ・ エルサレムにて（2011年）
- ・ ノーマンズランド＝国境線に存在する人々
- ・ 不安の根源と不透明な視界
- ・ 「プレモダン、モダン、ポスト・モダン」と「ローカル、リージョナル、グローバル」という時空の各3層が全て絡み合っている状態
- ・ サイクス・ピコ協定（1916年5月16日）～ ローザンヌ条約（1923年7月24日）

3 唯一のオプション：国民国家の再構築とウェストファリア秩序の形成

- ・ 国際秩序とは：“ウェストファリア秩序”（1648年）・・・近代の国際システムの根幹。ウェストファリア秩序に代わりうる国際秩序は今のところない。
- ・ 中東における「モダニティ」≠「国民国家」との乖離。近代の「国際秩序」の地理的拡大とアジアや中東における「ズレ」。
- ・ イスラムにおける「宗教改革」と未完の国民国家：唯一、強権的なレジームの構築によってのみ、まがりなりにも国民国家が保たれてきたアイロニー。
- ・ モダニティへのアンチテーゼ：イスラム主義が追求するもの。強権的な体制と反体制派の戦いの一方で、イスラム主義との戦いはより長期の戦いとなる。
- ・ サイクス・ピコの書き換えは起こりうるが、ウェストファリアは書き換え困難。
(参考:「世界史の逆襲 ウェストファリア・華夷秩序・ダーイシュ」拙著 2016年2月24日 講談社)

4 交渉によって紛争は終焉するか

- ・ 3度目の正直？：ジュネーブ交渉。米露を中心とする ISSG(国際シリア支援グループ)の支援。
- ・ ジュネーブ交渉の今：「暗く長いトンネル。それも出口なしの」。地上攻勢を進めるシリア政府 VS 劣勢にたつシリア反体制派、一時的停戦の脆さと被包囲地域への人道支援の遅々たる進捗。安保理決議第2254号に従った政治的移行、憲法、選挙をめぐる交渉の行方。8月末までの交渉の妥結を目指す。
- ・ 問題の核心：①アサド体制は真に変革できるか、②シリア国民が新たな社会契約を結ぶことができるのか、③シリアをめぐる地域諸国の対峙は和らぐのか。

Figure 1: Real GDP losses (billions of US dollars in 2010 prices)

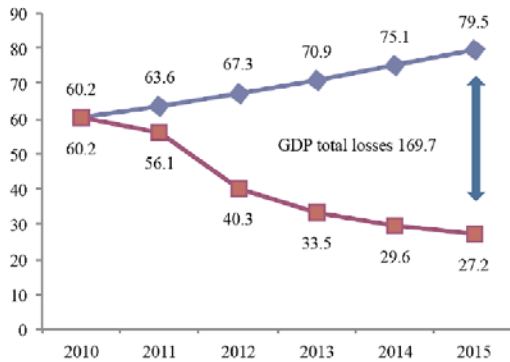
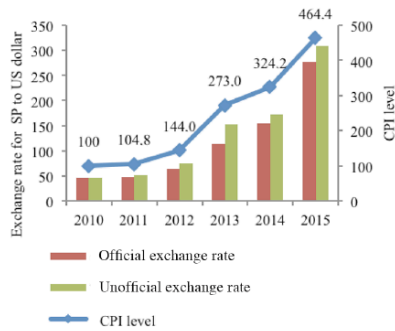
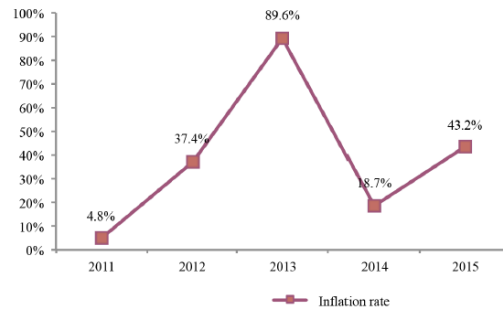


Figure 11: Consumer prices and exchange rates

A: Consumer price index (CPI) and exchange rates (Syrian pound to US dollar)



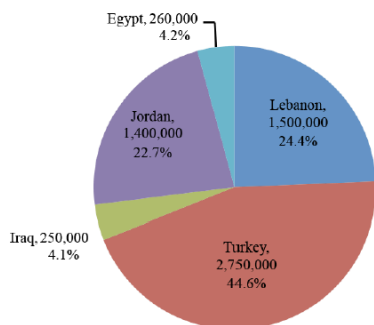
B: Inflation



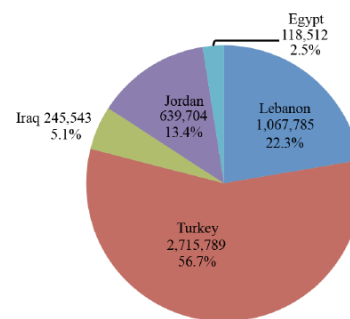
Source: Data from NAFS.

Figure 14: Syrian refugees

A: Syrian refugees in neighbouring countries



B: Officially registered Syrian refugees in neighbouring countries



(引用元 : "Syria at War : Five Years On" by UNESCWA and Univ. of St. Andrews, May 2016)